

障害者を描いた国内外の映画を一挙に上映する「つながり映画祭」が、東京都内で10、12日に開かれる。東日本大震災で多くの障害者が犠牲になったことを受け、「大震災と障害者」をテーマに専門家語る催しも行われる。

上映されるのは計7作品。障害者が利用する作業所など約1900事業所で作る「きょうされん」(東京)などが、映画を通じて障害者への理解を広げようと主催する。

「珈琲とエンピツ」は、ろう者の映像作家、今村彩子さんが撮ったドキュメンタリー。静岡県内でサーフショップを経営するろう者男性が、客にコーヒーを振る舞い、筆談や身ぶり手ぶりで話しかけ、人とのつながりを広げていく日常を切り取った。温かなやり取りが、ほのほのとこせてくれる。

障害者描いた映画 一挙上映

イタリア映画「人生、ここにあり!」は、精神障害の知識が全くない男性が、元入院患者らと共に無謀ともいえる就労事業を始めようとすることがテンポよく描かれている。ほかにも台湾やドイツなどの作品が上映される予定。

10日は、「きょうされん」常務理事の藤井克徳さんが「大震災と障害者」をテーマに語る。内閣府の調査では、東日本大震災で被害を受けた岩手、宮城、福島沿岸部で、



▲ 映画「珈琲とエンピツ」に出演したサーフショップ経営の男性と今村彩子監督(「スタジオアヤ」提供)

障害者の犠牲が深刻だったことがわかった。藤井さんは、避難所などで障害を理解してもらえず孤立した障害者も多かった。震災下における障害者の実態を伝え、今後の課題について考えたい」と話す。

11日には、被災地支援の経験を持つ精神科医や放射能に詳しい科学者らも話をする。

問い合わせは、会場の「アップリンク・ファクトリー」(渋谷区、03・6825・5502)。入場料は映画1作品、原則1200円。

「きょうされん」は、障害者が描いた絵を基にした来年のカレンダーの販売を始めた。壁掛け用(1200円)と卓上用(1000円)。応募のあった1438点の中から選ばれた絵を使っている。問い合わせは、きょうされん

(03.56605.2222)へ。